

# 図書館情報システムの導入

日曜開館とならび、市立図書館の大きな変化として、「いわき市立図書館情報システム」(以下 システム)の導入があります。

それまでは、手書きのカード目録で本を検索し、貸出・返却もすべて職員が手作業で行っていました。貸出票が見つからない、ということもしばしばあり、返却日もスタンプで1冊1冊手押しでしたから、システムの導入は市立図書館の歴史に残る大事業だったといえます。

市立図書館が、システム導入へ動き始めたのは、平成9(1997)年でした。当時、人口30万人以上の自治体で、貸出などの業務を手作業で行っていたのはいわき市だけで、利用者サービス向上のためにも、システム導入は急務となっていたのです。

システム移行準備のため、平成10(1998)年9月より市内6図書館を順次休館し、平成11(1999)年10月26日、「いわき市立図書館情報システム」が稼働しました。システム導入により、貸出・返却作業も大幅にスピードアップし、貸出冊数も1人3冊から5冊へと増えました。また、それまで本の利用状況などは各図書館がそれぞれ管理していましたが、システム導入により市内6図書館がネットワークで繋がり、他館の利用状況がリアルタイムで把握できるようになったのです。

また、システム稼働に伴い「いわき市立図書館ホームページ」も開設され、いつでも図書館と繋がることができるようになりました。



図書館情報システム稼働式(平成11年10月 いわき市撮影)

## 図書館電算化へ始動

**22日に第1回推進委員会**

市内6館の公立図書館。現在、各館とも検索し出し、返却などの業務を職員が手作業で行っている。全国の人口30万以上の自治体で、図書館電算化していないのはいわき市だけ。市立図書館電算化推進委員会(委員長、佐藤)が、22日(土)午後1時、市立図書館6階会議室で、第1回推進委員会を開き、各館の電算化を推進する。電算システムを導入することによって、6館の図書が一つのデータベースに集まることになり、利用者の検索が容易になると見込まれている。また、紙の図書目録を、データベースに集めることにより、利用者の検索が容易になると見込まれている。また、紙の図書目録を、データベースに集めることにより、利用者の検索が容易になると見込まれている。

### 情報検索などに威力

現業では存在しない。現状が、市内6館の蔵書目録をデータベース化し、検索できるようにする。これにより、蔵書目録の検索が容易になると見込まれている。また、紙の図書目録を、データベースに集めることにより、利用者の検索が容易になると見込まれている。

人口30万以上  
**手作業いわきだけ**

『いわき民報』(平成9年5月10日付)

## 蔵書情報をセットアップ

### 市立図書館

**11年度に業務電算化**

貸し出し・返却が迅速に

市立図書館は、平成11年度に業務電算化を完了し、蔵書情報、貸し出し・返却業務を迅速に処理できるようになった。これにより、蔵書情報、貸し出し・返却業務が迅速に行われるようになった。

蔵書情報、貸し出し・返却業務を迅速に処理できるようになった。これにより、蔵書情報、貸し出し・返却業務が迅速に行われるようになった。

6館が1つの図書館に

『いわき民報』(平成10年3月18日付)